

『信仰者にとっての忍耐』 ヤコブ5:7-11

- 5:7 だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。
- 5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。
- 5:9 兄弟たちよ。互に不平を言い合ってはならない。さばきを受けるかも知れないから。見よ、さばき主が、すでに戸口に立っておられる。
- 5:10 兄弟たちよ。苦しみを耐え忍ぶことについては、主の御名によって語った預言者たちを模範にするがよい。
- 5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。

●序論

2回目の緊急事態宣言のもとでの礼拝生活。

わたしたちが神を信じているからと言って、この世の事情・実情と無縁な生活を送ることはできないという当たり前のことです。ですからイエスさまは言われました。

ヨハネ16:33 「…あなたがたは、この世ではなやみがある」と。

聖書に登場する信仰の人たちは、それぞれの状況の中で、悩みの中に置かれ、悩みの中を生き抜きました。

しかし、その悩みの中で神さまを認め、神さまを求め、神さまとともに歩み、そこで、神さまからの安心と希望を経験しているのです。

ですから先ほどのヨハネ16:33の言葉の前後にはこうあるのです。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

聖書はわたしたちの経験するあらゆる時代の悩み、問題、そのすべてを覆う神さまの恵み時を表現しています。

2コリント6:2 神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

この恵みの日々が、今与えられていることを忘れない！

●本論

I. ここに明確なチャレンジがある

:7 だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。

「耐え忍ぶ」「忍耐する」という言葉のイメージ。

こんなにしんどいのなら、生きていてもしょうがない…などと思う人もいます。

その忍耐があきらかに苛立ちになっていている人も見かけます。

でも今日お読みしている御言葉は、大きくニュアンスが異なります。

1) それが信仰にあるチャレンジだということです

わたしたちに対してははっきり、「私たちの周囲には問題がある、悩みがある、状況が悪い」と語る。「でも、そこで耐え忍びなさい。その耐え忍ぶことにわたしの人生、あなたの人生がある」ということを示しています。

2) はっきりとその先にある希望と期限が示されている。

いつまでも…ではなく、「主の来臨の時まで」とあります。

私たちは、また一日、また一年、主が再び来られる時に近づいています。

5:7 だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

そして言われるのです。

5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。

II. ここに約束の言葉がある

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

私たちが今経験している忍耐の日々は、まさしく主が来られる日のために、わたしたちに備えられた日々です。

主が来られる日に、救いが完成する。しかしその先にしか慰めがないのではありません。つまりただ、私たちは苦難に置き去りにされているのではありません。

イエス様は言われました。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ28:20)。

恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。(イザヤ書 41:10)

ひとり置き去りにされてはいない。主がともにおられる。必ず主が約束された日はやってくる。この約束の言葉に身を寄せる信仰が、私たちの今の生き方を祝福するのです。

イエス・キリストは、神でありながら人となってこの地上に来てくださり、わたしたちのために、もっとも耐え難い罪の刑罰をわたしたちの身代わりとなって背負い、苦しみ、死んでくださいました。それは最悪の死でした。

しかしイエスさまはそれで終わらなかつた。神は、イエスさまをその死からよみがえられされて、わたしたちに信じる者に、完全なゆるしと下さる永遠の命と天の御国の約束を与えてくださったのです。

だから、この神の愛、イエスさまの愛の大きさによってわたしたちは救われています。

その約束の言葉、福音の言葉によって、そしてイエス・キリストの生き方と言葉によつ

て、今の私たちの生き方を決めることができるのです。それが私たちの信仰生活であり、教会だということ忘れてはなりません。

Ⅲ. ここに真実な神さまがおられる

5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。

「神さまがいらっしゃるから、わたしは今ここにある」、という信仰の告白は大切です。言葉を変えて言うならば、私たちが今ここにあるのは「神さまがそうお望みだから」です。それが私たちが信仰を働かせて受けとるべきことです。

そう考えるとわかってくることがあります。

私たちにとって、成功と思えることがらも、失敗と思えることがらも、不幸と思える事柄も、問題や災いと思える事柄の中でも、神さまがともにおられて、私たちをそこにおいてくださっているということです。

神さまが、なぜわたしをこんな状況に置くのか、その理由を私たちはわかりません。

ただわかるのは、神さまは、わたしたちがそこで福音に生きるものとして、信仰によってどのように応答して歩み、生きているかを観ておられるのです。

今週、教団の信徒向けサイトで紹介される落語家の露のききょうさんの言葉。

「わたしが救われたのは、のちに経験する苦しみな悩みのためだったんだ」

子どものころから、そして大人になってもさまざまな深刻な病と悩みを経験しているききょうさんは、「最後には天国に行けるんです。だから、今、人生を謳歌しているんです…」と神さまがくださっている約束への信頼を告白しておられました。

神さまがついている。神さまの約束がある。それが彼女の笑いを支えている。

私は、問題をかかえてこられた方々にお伝えします。

私には力もなく、問題解決の方法も知りません。でも私たちの信じる神さまはご存知です。どうか祈らせて下さい…と。

そこから信仰によって祈り、また神さまの解決を待ち望む生活が始まります。

どんな深刻な状況の中でも、「神さまに任せる」「神さまの解決を待ち望む」ことこそが、私たちの信仰であり、そこに必要なのは、神さまを信じる中での「忍耐」なのです。

神さまに働いていただくことが一番。それが私たちの信仰です。

●最後に

あの苦難のしもべヨブの忍耐の見本について語られています。

5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。

一方で、その前にこうも語られています

5:9 兄弟たちよ。互に不平を言い合ってはならない。さばきを受けるかも知れないから。見よ、さばき主が、すでに戸口に立っておられる。

ヨブは、神さまのなさることを信じ抜いて、一度も疑わなかったというではありません。… 注目していただきたいのは、その激しい葛藤、心の苦しみの中で、ヨブは神さまから離れることだけはしませんでした。信仰を捨てることだけはしなかったのです。

ヨブの忍耐とは、模範的な、優等生的な、すずやかな忍耐ではなく、激しい葛藤の中で、信仰だけは失わなかった、捨てなかったという忍耐です。

そしてヤコブが強調するのは、そのヨブの経験を通して「神を見よ！」言うのです。

:11b また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。

この神さまにこそ目を向けていただきたいのです。

私たちの、信仰生活での忍耐を覆ってくださる神の慈しみとあわれみがあるからこそ、私たちは大丈夫なのです。最初に開いた御言葉を思い起こしてください。

2コリント6:2 神はこう言われる。「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

この神の恵みを信頼して生きる。そういう歩みがクリスチャンに与えられています。そうすることで、今日与えられた御言葉のチャレンジに心向けることができるのです。

5:7 だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

この2021年始まったばかりで、コロナの問題、緊急事態宣言のもとでの不自由さを経験しています。そんな中でも、神の約束を信じ、主を待ち望む心と忍耐を働かせて、どのような時にも神さまとともに歩む。

神さまとともに生きる生き方を選ぶ者でありたいと、心から願います。